



教育データを活用すると、どんないいことがあるの？

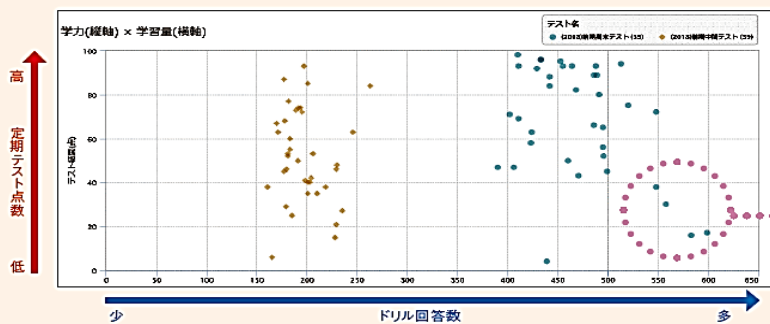
教育データには、**スタディ・ログ**（学習履歴）、**ライフ・ログ**（生活・健康面の記録）、**アシスト・ログ**（教師の指導・支援等に関するデータ）などがあります。教育データを活用する目的は、これらのデータをもとに、一人一人の児童生徒の**状況を多面的に確認**し、学習指導・生徒指導・学級経営・学校運営など教育活動の各場面において、**一人一人の力を最大限引き出すためのきめ細かい支援**をすることです。教育データを活用することで、教員の経験や勘だけに頼った支援ではなく、**エビデンスに基づいた適切な支援**を行うことができるようになり、**授業改善**にもつながります。



教育データ利活用の好事例を紹介します！

文部科学省委託「次世代学校支援モデル構築に関する調査研究」において先行的に研究を行った東京都渋谷区の「デジタルドリル等のスタディ・ログを活用したつまずきの早期発見と支援」の事例を紹介します。

● 課題別ダッシュボード



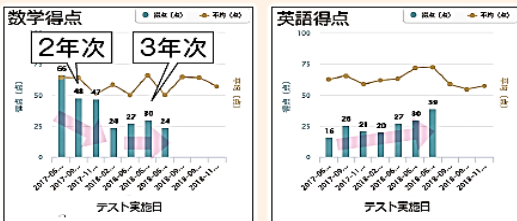
デジタルドリルでの学習には積極的に取り組んでいるが、テストの点数が振るわない生徒に着目する。

【活用した主なデータ】

デジタルドリル学習履歴、各種テスト結果、出欠席情報、アンケート結果、日常所見情報

① デジタルドリル等の学習履歴から**気になる児童生徒を把握**する。

● 注目した生徒の個人カルテ



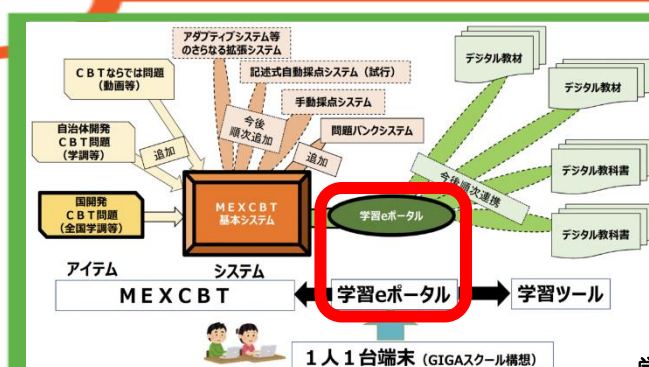
着目した生徒の個人カルテを確認し、より細かい状況を把握する。定期テスト結果の推移からは、数学は2年次から成績が下降傾向にあるが、英語はわずかに上昇傾向にあり、教科によって異なる状況が把握できた。

② **気になる児童生徒の個人カルテを確認し、より細かい状況を把握**する。

● その他、家庭学習における学習量や学習内容、アンケート結果から学習意欲等についても実態を確認し、教科担任と結果を共有しながら、具体的に指導内容の検討を行った。

● 生徒本人に対しては、家庭学習で取り組む内容について具体的なアドバイスをを行い、学習状況や宿題の提出状況を引き続き見守ることとした。

③ 情報を管理職や教科担任等と**共有し、個別の支援**を行う。



「学習eポータル」ってなあに？

学習eポータルとは、デジタル教科書やデジタル教材、MEXCBT等を利用する際の**窓口となるもの**です。学習eポータルにログインするだけで、様々なソフトウェア等をログインせず簡単に使うことができます。また、児童生徒の**スタディ・ログを可視化**する機能もあります。



学習eポータルのイメージビデオはこちらから→